

## 平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	一橋大学	整理番号	d004
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	社会科学の先端的研究者養成プログラム		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 社会学、政治学、文化人類学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (調査技法、教育技能、展開力、国際性)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ( [ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 社会学研究科・総合社会科学専攻 [修士課程・博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 渡辺 治	
	(その他関連する研究科・専攻名) 社会学研究科・地球社会研究専攻 [修士課程・博士後期課程]		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>世界水準の社会科学に特化し、中教審答申の目指す「新時代の大学院教育」を担う基幹的大学院大学としての自覚に立つ一橋大学は、<b>国際的な展開力を備えた先端的研究者の養成を使命</b>とする。一橋大学大学院社会学研究科が取り組む本事業「<b>社会科学の先端的研究者養成プログラム</b>」は、世界水準の社会科学が必要とする<b>高度な研究能力、教育力、展開力などを備えた先端的研究者の養成</b>を目指し、「<b>新時代の大学院教育</b>」<b>実質化</b>への強力な推進力となると期待される。本事業に対し、大学をあげて支援措置を講ずる所存である。本事業完了後には成果アセスメントを行い、当該研究科の自主的努力に関する評価を経て、本事業を本学全体のなかに位置づけ、発展継続させる。</p>			

## 5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)

一橋大学大学院社会学研究科では、平成12年度の大学院重点化以降、研究科をあげて、

- ① **総合社会科学専攻**（ディシプリン・ベース）と**地球社会研究専攻**（イシュー・ベース）それぞれの教育強化と**両専攻を総合する教育取組み**
- ② カリキュラム再編成による専門教育の質的量的能動化の推進
- ③ 博士論文作成指導體制（論文指導委員制度、博士論文計画書審査制度等）の強化

に取り組んできた。①②の取組みと③を総合した努力の結果、**課程博士学位取得者数が飛躍的に増加**し（平成12-15年度平均8.25名から平成16-17年度平均20.5名へ）、全国の社会科学系大学院のなかでも卓越した博士号輩出研究科となった。しかも標準修業年限での取得者数も着実に増加している。

**今後の課題は、企画力、教育力、調査能力、ディシプリンとイシューの統合能力など、博士号取得者の先端的能力養成の強化**である。一橋大学大学院社会学研究科は、5-(3)に述べる能力開発事業を計画実行し、「**新時代の大学院教育**」の**実質化**という目標を達成する。

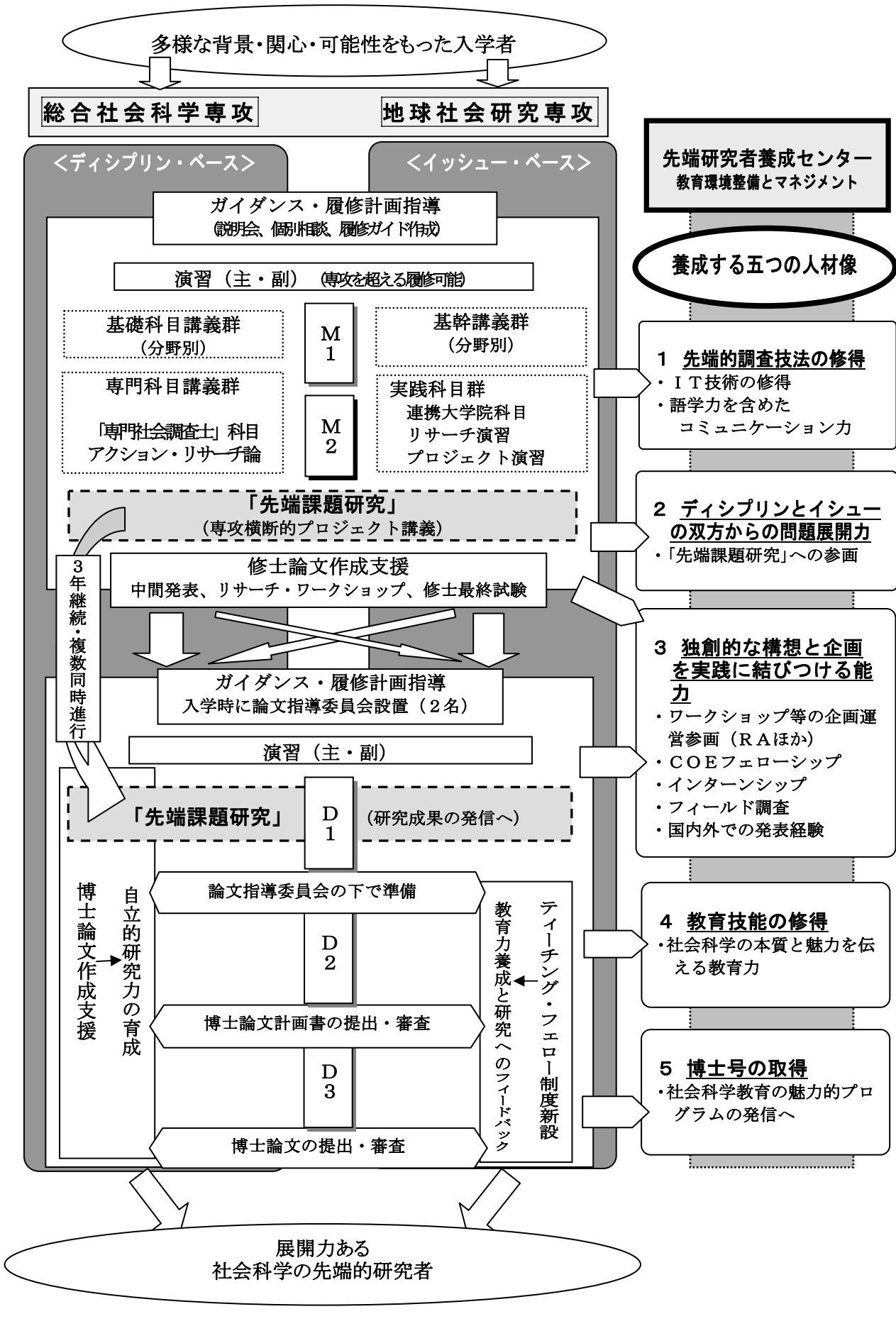
## 5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)

本事業は、大学院教育において、以下の取り組みを行う。

- ① 世界水準の社会学者・人文学者が身につけるべき**企画力・調査技能・IT能力・発信英語力の養成**
- ② 次々世代に対する**教育技能の修得**
- ③ 両専攻を横断するプロジェクト講義（名称「先端課題研究」）増強によるディシプリンとイシューの**総合的展開力の涵養**
- ④ 先端的研究者養成教育を担う中核的組織として「**先端的研究者養成センター**」の開設

これらの取り組みによって、博士号取得者数の着実な増加に加え、先端的研究者としての能力と自覚ある博士号取得者を養成する。すなわち、博士号取得後にも、さらなるステップアップを計画実践できる、**展開力ある若手研究者の育成**を企図するものである。

6. 履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



**<審査結果の概要及び採択理由>**

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・先端的研究者養成に向けて、高度でかつ幅の広い専門的知識・能力の修得を目指した体系的な教育プログラムが準備されており、実現可能性の高い、優れた取組である。特に、先端的調査技法の修得に向けたプログラムの構築、ティーチング・フェロー(TF)制度の設置、英語による授業の導入など、調査・研究能力、教授能力、発信能力を向上させるための各種の工夫がなされている点が評価できる。
- ・外部から招聘される講師・教育支援者による教育支援に依存する度合いが極めて高い教育プログラムとなっているが、専任教員が創造性豊かな若手研究者の養成により積極的、継続的に取り組むよう、教育プログラムのより一層の充実が望まれる。